



いじめ事案の傾向と対応について

本校のいじめ防止対策委員会において、担当教諭（中村）を中心としてまとめたものです。

子供たちのために、是非、保護者や地域の皆様とも情報を共有したいと考えましたので、紹介いたします。

【いじめ事案の認知件数】 ※2月～5月認知分

認知事案 23件 うち21件はアンケートから うち2件は本人・保護者から
経過観察中 23件

※3ヶ月間の経過観察を経て解消としているため、5月以降の事案については、現在も慎重に経過観察中です。

【いじめ事案の実態や傾向、学校での対応等】

<低学年>

- ・遊びの中での、相手からの暴言、暴力、自分勝手な立ち振る舞いによる被害を訴える児童が多い。
- ・まだ友達との関わり方が分からず、相手の気持ちに関わらず、遊びの中ではよくあるような相手からの行為を全て被害と感じてしまう児童もいる。
- ・子供が加害や被害について自分で認識したり説明したりすることが難しく、普段の学校生活でその都度保護者と連絡を取り合いながら指導を行うことが大切である。

<中学年>

- ・自分の思いを、相手に言葉でうまく伝えられないことから、すれ違いやトラブルになってしまうことが多い。
- ・自分ではスキンシップだと思っていっても相手にとっては嫌なことだということに気付かずに行動してしまうことが多く、それぞれ感じ方が違うことに気付いていないことがトラブルの要因になっている。
- ・自分の思いだけでなく相手の気持ちを考えること、友達の考えを大切にすることなど、日々の授業から考えを共有する経験を増やし、指導を行っている。

<高学年>

- ・日常の中で起きるトラブルに対しては、自分たちなりの判断・行動で解決し、「いじめ」事案として尾を引くことは少ない。
- ・お互いに、じゃれ合いやからかい合いをしているのに、一方が加害として訴えられている場合がある。→「言った者勝ち」にならないように、注意深く事実確認をしながら指導していく必要がある。（全学年に共通して重要）
- ・小さな集団で長く生活しているため、今の人となりを見るのではなく、これまで蓄積したもので判断してしまうことが多い。成長や変化している部分を素直に受け入れられるように働きかけていく必要がある。
- ・まだ幼く、教師に話を聞いてもらいたい児童が多い。しっかり自分を見てほしいという児童の期待にも応えながら、自己中心的な考えは改善していけるよう指導する必要がある。

※裏面に続く

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年6月24日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）

【学校としての取組】

いじめ防止に係る総点検の実施

- ・いじめ事案への対応方法，マニュアル等の確認を校内研修として実施し，担任個人ではなく，組織として対応することを再確認した。
- ・児童同士のトラブルがあった場合,担任だけではなく,校長,教頭,教務,いじめ防止担当,生徒指導主任,学年を含め対処方法を考えていった。
- ・OJT で初期対応等について職員で共有し合った。

いじめ防止きずなキャンペーン

- ・児童の自覚を高めるための宣言シートの作成
- ・いじめや命をテーマとした授業の実践
- ・「あいさつ畑」キャンペーン(今年度の計画委員が計画した異学年同士の関係に焦点を当てた活動)
- ・計画委員による「君にありがとう」キャンペーンを中心として，お互いの良さを認め合う活動の実施

今後も，大切な子供たちのために学校・保護者・地域が心を一つにしていくことができるように，学校も努力を続けて参ります。ご理解とご協力をいただきますよう，改めてお願いいたします。